

附遠 13
番 2209
卷 43

繪本豊臣勲功記五編卷之三

目録

秀吉原信訪依久間信盛

属 智服因州

飛井受謀欺森下中村依

属 秀吉遠計

豊臣五編卷之三

秀吉將大軍攻圍鳥取城

属 清正介候

鳥取落城吉川經家自害

属 馬野對陣



繪本豊臣勲功記五編卷之三

江戸 八功舎 徳水刑補



秀吉厚信訪伏之間信登属智服固州

魁梧難以... 威風... 千謀万略... 野に据座... 中園... 分外の褒賞... 皆由分給...
魁梧難以... 威風... 千謀万略... 野に据座... 中園... 分外の褒賞... 皆由分給...
魁梧難以... 威風... 千謀万略... 野に据座... 中園... 分外の褒賞... 皆由分給...

豊臣自伝 五将考之三



秀吉

信義を

尊しく

佐久間が

寔居の

高野山小

訪ふ

豊臣自伝 五将考之三

素ハ信重秀吉と姫姫て軍事政通妨げしこと遭次ありしが秀吉
 心ヲ憎むことなく。今信とて訪ふこと實に大仁の舉止なり。然れど
 以筑前守秀吉と連敗姫姫一を歸り。中國加勢の軍甫にまづ同別也
 平法せんと同年八月下幹とて一万余の兵を率し。但るの國ま
 ず出陣し。遠國の守護職出石の城主山名右衛門依照を以て過はる
 五月降参して。將兵が旗下不屬せし。柴子冠隊を命じ。決り。國情の國
 一費向ふ。秀吉の城を山名大將大補を國と歸拔せんと。一族を
 名照豊に初めさせたり。然るも山名を國へ使毛利家不歸屬し。人
 質と手を出し。これを心懸く思慮定まらぬ。家宰慶下出羽守中
 村但馬守直人。最愛の児と質して。毛利家へ出置け。直人を神の
 子將柴への降参を拒まらる。由是。其國これ不同意して。固く兼拔せらる

る。秀吉これを聆り。毛鷲を謀慮をめぐりし。然れども。惣地をその之史を
 得く。同國麻野を攻んと。遠域中に毛利の旗下之澤之存た。東門
 と藤巻信吉と大將と。其邦兼協内益元佐。本若佐信吉と。しる
 家。一子餘人對候守り。山名を圍り。びに家宰慶下。中村兼海が
 人質を兼後在り。秀吉領て遠征を。潛兵を投し。聆置たれば。世也小
 麻野へ推進せ。如福像麻と持提圍之。城兵の氣を折らぬ。秀吉回
 喚小威を揚げ。暫時小軍提る威勢を。城を大不怖。是は慌
 忙。急を。と。程。と。使者をつら。山名を圍。主。後。の人質
 を。りて。返。し。を。城。を。一個。も。害。を。承。し。て。命。を。助。け。歸。國。を。せ。人。備。遠。河
 を。宵。く。小。お。い。の。投。炬。り。て。四。方。小。火。を。う。け。城。を。の。こ。り。燒。殺。え。返。陣
 成。驗。人。と。偶。遣。た。れ。バ。城。兵。これ。不。恐。怖。して。之。澤。を。着。を。初。め。は。り。山

平等に懸守せし此歳ハ水害不近らんばとて播州姫路へ凱陣せられぬ。然
 るも山名を圍ハ實意をそつと降参せしと。家宰森下中村候より
 外面の歸振られ秀右帰陣の後をうらう。主人に及心を勉むるに
 圍心と堅うて。更に兼清せしむ。主人忽地逆意を發し。主人を懸坐
 毛利家へ使者を遣はし。主人を圍束縛し。相討秀右を以降参し。
 圍を欲せし與へしこと。朽憾を次舟中へ。然るに首好と下さるに
 つくハを國と隠居さう。國州よりて去の如く。取返しまうとて。と
 併へる。毛利家も。其準備せしとらむれば。こそと希音の傳と
 む。市川雅樂丞と初ハ牛尾之丞森下春重ともつ。はうと主人と密約と決む。う
 龜井受津款森下中村候屬秀右遠計はうと主人と密約と決む。う
 曰天帝釋が威徳の劔も秋を斬裁すること能はば。然ハ森下中村候ハ

おのきが利款不主人を亡却し。國州一國を掌に入人と。密も毛利家と
 通し。つら成。豊國つら聆出。柴燵がたふ計られんより。快危と
 避ふ如し。と近士僅に知を付し。情地不非路に到り。筑前守に告げ
 るも秀右奴衆が逆意を悟。不日不殊戮せざるに。一應計と
 款人と。龜井が方へ謀計を稟し。送りたる秘不。麻野礮臺の支城
 以ハ其の準備を揮し。備不取の城中に。森下中村の逆城軍。
 を圍の退去を不款び。毛利の勇將市川雅樂丞を逆入。圍中此款
 を返拂さんと。日秋軍議に追ひ。隔ま不難。三伴あるま。市川
 と。と大おら。麻野の城を推進する。中村人質を返返さん。使者
 と。つら城中へ遣。備人質を返返さん。城の命を助給せせん。
 用捨へふと。稟し。来るを。龜井心に討む。然ハ大お秀を。謂送

龜井謀を
奉て森下
中村等を
欺詐
擲す



龜井謀を
奉て森下
中村等を
欺詐
擲す



らさる計策を執りてんと時を考へ推軍の使者に濟さくつらやう。
 命のおもむき業りぬ然りとつごも人質の義ハ私小料めが。急ぎ
 播州へ汎合せ秀吉の下様に任せまうらん。俺們不倫當國と守得る
 ことおとひもよらば秀吉も亦上の方に事あるとりく腫なれバ吾儕を
 救ふ小脅力及む君敵も子く人質を様へ姫路へ五車に帰らんこと。
 此上もなれ本望なきべ一支日を待せぬ。汎使の瑞次君を奉のさうら
 ひるしまうさんと返答せし誠實に思ひその後と様して公士と様
 める取の楸へ返返を。飛舟ハ楸色の城兵小謀を謀合せ。二日をりせ
 るして暖まづ麻野城の法名と百有餘人擇出し。これを城印けた右
 に伏せ並まらる楸色の八百餘人と。麻野より四五町隔る津軍の
 途に埋伏さすめ。然と捕へ人質のうち豊國の息女のを活安

森下中村の人質ハ愈悪く首を刎又も多取へ使者を遣へ人質
 様しまうとぞれバ明日更取ままつらる。初らる吾儕が歸路に楸一
 二の関を除くせぬ人と。言送る森下中村。これらの緯と法更は。暖る楸
 避しと待候。先人質を返收を。二十餘人を率從へ麻野小川り
 先掃磨路の関を閉せ。衛兵を遣け。急ぎ城介小を記遣人質押せと
 言寄る。城中使より準使せり。人質ありとて多の騎輿次中村外
 へ昇り。それに繼ぎて二百餘人城門を出て款小嚮ひ去来れ受取
 あるべしと。よも友人彼率に命じ。彼驕輿をうけらる。森下中村近
 傍て。吾子のを奉る顔と人との橋の扉あくれ。形は。徒児輩
 の穢れとつら由急願することおやとる。嗚と悲嘆の音を。噎きた
 音の状を一登に起る。數百挺の槍流と。筒夫撞て。秀礼と。敵を奈わざ

に懐設けぬ事といひ。悲嘆に沈む機合るれば一足才子春得の慌
 忙に執動しなるが。素下出羽も無念にわさひ。隊伍を整へて戦ふ人と。
 四八町許運送し。自軍の兵を集めんと。若後に指揮を付する機合候も
 の誠を八百餘人の左右より。政て登籠橋を碍に葛起し。火を焼てし
 うる百勢。願ふや遠小も伏兵ありと。陣面と下の違も。それまた。將人
 外つ放走するに。素下今ハ脅力なり。付枚に退さるるも。無井も十分の
 捷を以てれば。長途を量と自軍を襲め。詰用するこそ。執りたれ。遠路小
 陣陣をまどし。丹内は同橋の地を退去。播州姫路へ歸り。新の敵を
 下中村へ。牧軍の勢と被此法を。喜び推進。来て着る。他軍の
 つう退去し。新の敵を。城門外。素下中村の児女子。皆が屍成
 喬く磔に棄。その傍小紙懐と樹。雲くろくと。大文字。相傳の。是君を愛

天下と歌く。お逆の罪人。枝葉といふも。斯の如く。行ふものなりと。記せ
 しうも。素下中村の悪人。おのまが罪と。願ひ。何の怒りあり。いさ
 怒し。敵と。敵と。枝収め。清く。て。退死。多。備亦。無井。新。十。并。皆。取
 の。敵と。漫く。と。歌。き。空。國。の。息。女。と。傳。ひ。姫。路。小。陣。之。南。竟。と。言。つ。を
 ら。う。に。若。々。れ。ば。荒。不。守。こ。を。を。驗。無。井。が。所。行。と。感。當。し。息。女。と。言。ふ
 に。通。与。ら。る。あ。を。空。國。喜。悅。か。さ。う。り。吾。児。が。活。命。せ。し。こ。も。命。荒
 洲。の。仁。信。り。ぬ。と。泪。は。哽。び。く。恩。を。謝。也。其。より。後。の。あ。ま。日。之。事。小。新
 暮。と。さ。さ。を。さ。る。が。秀。吉。又。も。國。州。の。踐。蹙。と。得。と。听。し。む。ら。に。素。下。中
 村。事。と。舞。て。毛利。家。より。守。將。と。迎。へ。有。取。城。と。さ。り。り。今。避。て
 攻。起。る。とも。事。成。統。せ。ぬ。朝。と。受。り。別。小。涼。智。の。を。保。と。二。夫。一。股。腕。の
 片。家。に。密。計。を。教。授。し。高。船。又。艘。を。行。舟。さ。る。と。れ。く。に。行。高。に。お。扮

せ。金銀穀米候に齎らせ若狭と通りて因幡小引とせ。米粟麦豆はい
 ずもさうりあり。其餘の穀類はやくらひ。去糧とるるをそのを買集む
 以その價へ日來に倍して買あさる由云百姓はつふ及をば。森下中村は
 口候も。計略と六秋毫初り。利欲不遂して意の随く軍用金にま
 りりと種へ去糧過分と販拂ひ。款びたるをて。鈍頑なれ。然ば將柴が調
 畧と候へ。次中へに買集りて初春の央に列る。後へは。彼の大阪小
 引とされ。今ハ事とや。是れとく。然然とく。帰帆ありたり。明は。天正
 九年の春。吾取城中の祈あり。吾川元春その意と撰び一旗ありける。
 吾川武部少輔經家とをて。大將とす。森脇若狭守。松尾安右衛門
 山形筑後守。新枝加賀守。丹下新之助。武永。市兵衛。長尾又右衛門
 長和。三右衛門。長尾。佐藤。野田。左衛門。尉。候。保。平。合。を。と。二。子。餘。人。

二月廿六日。日く。藝州の地を發行しむ。海上風帆意の如く。一を款し
 て着岸なり。因州吾取入城し。これを森下中村おわひ。小猿喜し。吾
 川勢のその外に郷民を率奉は。都合七十餘人とす。内外を
 びく。穿城せり。秀吉郭と略あり。然ば。座なぐ。款圍を扼んと。計儀
 とす。支し。伯州の自方。南條。小鴨。が。許。密使を遣す。随分。圖。儀。を。毛。利
 家と。親。合。ひ。て。私。妨。ま。す。郭。危。に。及。す。那。响。ふ。も。巧。是。若。速。地。小。加
 勢。ま。す。と。粟。造。ま。す。の。意。趣。は。伯。州。の。款。強。な。れ。ば。毛。利。家。因。州。を。救。ひ
 け。し。後。令。援。兵。ま。す。と。い。ふ。も。急。る。事。は。な。ら。ず。と。れ。ば。右。左。の。際。に
 吾取城中。兵糧。盡。く。困窮。ま。す。と。計。段。々。勝。困。者。と。備。不。足。を。是。に
 流言。を。さ。さ。り。中。の。秀。吉。六。万。餘。騎。を。も。つ。く。因。州。境。へ。出。馬。し。吾
 取。城。を。包。圍。復。是。な。ら。ず。伯。州。へ。お。も。む。さ。て。毛。利。の。梢。寨。を。食。攻。破。り。

秀吉の深慮
鳥取城中の
米穀を惨々
糶締る



屯に雲川へ砲投るをより頻に不決を思ふ。非路にかゝる出軍
 の準備をなするも急謀る不遠く毛利の困者遠流言を听し
 執て返して註伴せり。それのさるるに筑前守丹波但馬の自方に命じ
 毛利方より香取へ去糧運給せざるや。海路を嚴しく堅固にさしむ
 和川公親が補居るに云々丹波の困者命をうけしむるに彼に列に仁成せり
 困者もさるるに百姓等々の困者も一國平路をさるるに南島の富嶺一處に
 居るに急謀るに丹波の困者と和川公親の困者とをさるるに丹波の困者
 住しむるに丹波の困者と和川公親の困者とをさるるに丹波の困者
 急謀るに丹波の困者と和川公親の困者とをさるるに丹波の困者
 るふ。七十餘人籠りし。又子に糧をせしめ九向の食糧をさるるに
 らん。經家大に發願し。快意州へこれと告ぐ。急糧運給を謂掛け
 せども。頻に計しことなれば。かゝる通路のほることある人。困窮次第に
 逼るるに。急謀るに。丹波の困者と和川公親の困者とをさるるに丹波の困者

城より一里と隔し。丸山と云ふ一堆の丘。小城を築き。當國武士素和日
 本之助海城の首領也。佳屋周防も佐々木三郎左衛門殿の命ト。一千餘人共にお
 け。山形丸山と云ふ。丸山の城と云ふ。備又右川小早川を
 雲伯石の防備あり。香取城への急糧運送事を八方に保持。發動を
 せしむるに。細川を海上に通路をさるるに。満方の分撥
 細川も。芳徳流不廻詰なり。秀右衛門と竹下も。討てを宣け。先
 急謀るに。進發をせしむ。安土城へことし。同來六月廿五日。その
 調軍を成たりたり

秀右衛門大軍攻圍香取城屬清正行儀

博物志に。ある不飢の法も。太平の世に。律ふこと。力と情む。或國に。飽
 まで。飲食を。され。出軍場を。いふ。せん。發。金銀の。山。とも。飢て。飲

帝釈山の本陣を安在て
秀吉管絃を奏し



豊臣氏五編卷之三

十四



豊臣氏五編卷之三

十五

本陣よりなる帝釋山小能樂の輩を召集。管領系行を妙絶く。疾
 となくとなくあつてさるに。自方の諸兵士これがさる軍中の聲向を
 掃除す。それ小將及手取の城中にへ。糧運給のたよりと待ども。更
 に消息のたより。羽柴が軍進来。鱗くして。糧運。軍令。密
 細のり。これ細魚。糧運のり。あし。恐怖の思念絶ざる。糧運。帝
 釋山の陣中。小能樂。琴笛。和調。して。風のまよ。聆り。城者。們。を
 食。俵。小面。を。看。あ。せ。肝。膽。を。恨。ま。う。銃。氣。を。碎。き。傷。も。百。計。ま。り。ま。り。
 故郷の老親。妻子。と。懐。出。心。情。欲。と。共。小。沈。こ。る。こ。と。陣。詰。に。聆。傳。ふ。
 子房。が。嘯。く。洞。簫。も。斯。や。あ。ら。ん。と。懐。古。范。前。の。あ。ら。ん。朝。暮。と。さ。ら。
 左。陣。中。あ。く。遊。戯。宴。樂。の。換。様。と。做。し。め。事。密。に。發。固。さ。ま。り。く。
 時。刻。に。順。檢。せ。り。然。る。小。吉。川。經。家。の。屋。を。と。つ。と。も。屯。小。出。た。敵。下。

中村と呼をけ。秋。毀。な。ん。と。初。め。た。れ。と。も。後。病。未。休。の。事。な。れ。一。日。遠。夜。と
 候。も。久。坐。み。つ。つ。泣。く。食。ま。る。の。事。な。り。備。前。吉。川。元。春。の。固。別。の。糧。を。と。り
 さん。と。と。れ。と。も。伯。明。の。り。なる。南。條。小。鴨。勇。と。奮。ま。り。礼。符。け。は。は。これ。た
 り。小。遮。ら。ま。り。出。馬。の。事。意。に。任。せ。た。形。な。り。と。然。る。も。取。取。を。雙。の
 傍。地。し。そ。力。攻。に。あ。ら。ん。地。の。ま。り。糧。と。給。り。て。部。助。人。と。の。新。り。ん。た
 赤。門。村。有。地。右。を。飯。に。命。と。傳。へ。糧。と。運。給。せ。さ。れ。と。も。上。流。は。さ。ら。方。所
 なる。ま。り。管。領。船。を。擣。撲。せ。さ。る。麻。呂。足。氏。部。の。命。と。して。十。四。艘。の。糧。運。小。糧
 船。又。般。と。後。小。附。く。漆。を。く。窺。傍。里。暗。夜。に。紛。り。入。ら。ん。と。も。と。沙。野
 流。を。清。これ。と。く。あり。回。る。方。細。川。の。船。大。將。松。井。康。之。に。指。揮。さ。る。に。と
 頼。て。値。下。砲。角。を。く。兵。船。般。船。こ。と。く。く。激。塵。に。烈。爆。を。さ。る。と。も。清
 長。政。船。推。出。し。敵。船。の。ま。り。突。殺。し。と。れ。は。麻。呂。足。氏。部。の。勇。を。た。れ。と。も。沙。野



浅野の
 弥兵衛
 命を奉て
 中國の
 兵糧船を
 撃破す



松井少猛威に折られ。終に歿死せしむるに七。残兵の食た有り海兵直とつ
 して溺死したり。これによりて熾中と援助するを糧あつたりとれ。将年
 次第に困窮して。今を糧令く盡果。歩役の彼年百姓門へ。己日十日の
 穀を食ひ。紀居の舟も河へ流れ。歩役の舟も河へ流れ。七歩役とて六あり
 のふ橋の柵邊まで遠出て。道の旁を橋本の根を穿。其若幸波の味哉
 えんるを。嚙嘗るを。穢猪の湯く。なうふも稻の根子とるんを。さむめず珠
 玉と拾ふありし。微しづ小配一の食して。暫時の飢と凌ぐふ。歳下海平
 日の如く。糧乏し。たとも頼び。日と三時ふ飲食し。たるが。彼年們的威死する
 と。彼年們的威死する。心と傷め。備ねに拘て。三度の食を二度ふ減。さ。一度の分と。
 彼年們的威死する。幸三月日。彼年們的威死する。昏して。既七月より九月ふ。より八十餘
 日。たとの際。毛利家よりの援も有り。一炮も放ちもせ。糧圖するに

そなれば。城兵の唯幾ぞ。死んふととのををひ中り。事なる起れと。時た
 也。時ふ羽は。荒茶も秀吉。加茂市之。則清正。略頭賀小六。家政又十席。改名。又
 窓に振ぎ。飯個を。芳さくひ。ひるも。音。僅遠。城中。を糧盡く。定めく。困
 窮なり。め。頼て。鎌一。潜形を。と。後路の。峯に。攀。城内の。有を
 を。沈視。来と。命を。彼り。略頭賀。加藤。膜。汗。具。各。後者。十人
 を。り。身。軽。小。旅。令。率。後。弓。矢。齋。らせ。沈。と。後路の。峯に。潜。登。を。然る
 に。有。取。の。城。内。の。事。な。り。と。時。刻。案。接。小。登。り。て。遠。を。と。眺。を。在
 る。とも。い。さ。あ。加。茂。略。頭。賀。後。路。より。騎。り。来。る。後。腰。く。大。將。領。家。に。若
 たり。し。う。備。の。款。名。城。内。の。虚。實。を。試。ん。と。存。候。を。あ。ん。伏。せ。り。て。設。提
 也。と。指。揮。に。之。士。懈。統。起。強。兵。五。百。有。餘。人。後。路。の。山。の。半。段。に。埋。伏。し
 て。密。に。漢。加。茂。清。正。略。頭。賀。家。政。浩。る。事。を。知。る。べ。し。と。も。傑。氣。を。確。又

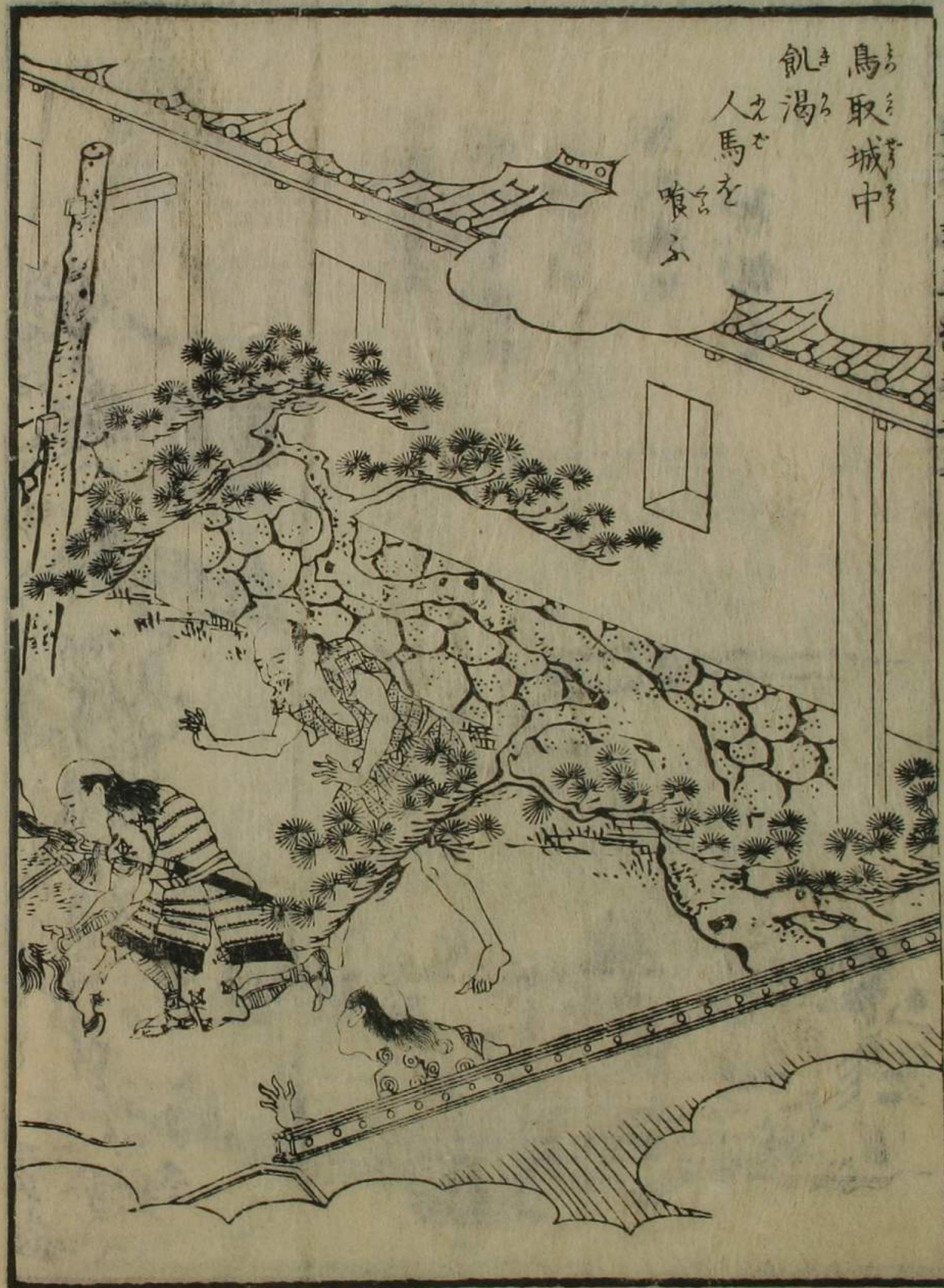


加藤清正
蜂須賀家政
大勇を以て
鳥取城を
熱観す



飢饉の世に...

十一



鳥取城中
飢渴
人馬を
喰ふ

鳥取城中...

の饒勇なれば崩山彼石も怖ま得じ。藤蘿に掛り樹石を廻ひ。幸ふとて
絶頂小登り。心静に城中の動靜虚実と得と視沈し。思氣もゆる亦之
の。間道を下来る。葎草をひきまら叢陰小一炮をく暗号小や埋伏し
たる城を度一度に吐と發起つ。加夜時頃突驚とせしが大獲不致とてこ
しも強がむ。賊鬼回慈の弊漏く武者目子物視せんといふ案に。猛氣
の主従二十餘人奮突裂振河さす不中せ。溪河一泡墜斬落ひかふ虎
之和清三槍の大本と背揃小取弓小矢格つ。散く小近進る敵を六七騎石
例左瀬子射外くたるが。矢後それ右刀技ををめ。頭脚面背刀のまやく。
藪藎菁菜と屠るが像く。殺虚くと破て饒る。亦是小従ふ本村并上。藪中
みんどの暴漢者。絶虎の沙石を飛たか如く。喚叫んで戦ひたる。これ小者
らを城頭突後。四角八面に斬むせむ。百餘人の城を案。途せうし

みんく敗走を走。小六家政務小案て。逃蒐人むらと清正制止し。事と好ま
で歸ふぬば。敵提する首七ハッ。従者小持せき山路をいそが本陣當て
を歸る。城を猶も人救と量し。暮び逃出たりしども。然も小見えん。ハ
と空しく。賈罵を還返を。加夜時頃突後。是事小本陣へ。立歸
り城中困苦の所見う。途中埋伏の軍の始終。提する敵も是出し
て。仔細小言状す。やどに秀吉やと感佩なり。褒賞あつく歎了
またり

弓取居城吉川頼家自害馬野對陣

座して食へを山海ともせしふと。鯉鰯の譚に似れども。方僅き
取の城内ハ。飢渴殆究し。竟して。十月庚辰に門をこころの本を案。子も
喫盡し。牛馬を殺。百姓を殺して。その肉を草食こと。餓する鬼が出生

食と貪喫に若くは後ハ大將の名馬まで偷出して屠會ハ秀吉に
 せしめ俸とせし。詳ハ所探り。誠ハ毛利輝元とせしめ吾川元春。小早川
 隆景。仁徳信義の大將なれば。幕下の諸士とて。熟教はるものには。
 忠義の道と堅くさせられたるものハ。仁烈の意と厚かりし。不道と堅
 く誠りたる由也。這遭ち取の牢城也。影も老成と全して。ちりお
 ること温諄なれ。今ハ罪ハ決率百姓。餓寒に苦しめ死しむる。最
 不便なる俸なれば。救ひくは人と懐起。堀尾茂助。吉晴。一柳。市助。壺
 坂。人々とて。使者となり。ち取の城。門當遣り。大將。隆景に。徳宕
 々中。既に七月の初より。首冬。の今日に。ち取を。徒に對陣し。く
 決率の勞。成。傍の。せしめれば。如く。使く。和睦と。遂て。城を。搦。大將
 ちりめ。牧野の。難。車。ま。天地。不。替。く。助。命。と。べ。中。小。純。て。山。名。の

家。長。森。下。中。村。佐。々。本。佐。谷。ハ。主。君。不。仇。む。る。遂。成。な。れ。ば。如。命。と。る。こ。と
 不。い。が。じ。其。餘。ハ。嘗。て。害。ま。さ。む。く。程。存。意。也。の。意。何。く。も。万。一。事。ハ。し。り。あ。り
 和。平。し。て。退。城。あ。ま。と。仲。々。ら。ふ。ぞ。程。家。長。と。て。沈。吟。し。つ。堀。尾。一。柳
 以。善。う。る。や。身。不。屑。な。れ。ども。武。部。少。輔。ち。取。城。不。將。う。て。幕。下。中。村
 俊。以。自。害。を。せ。功。に。れ。命。を。活。舒。へ。小。面。目。ハ。本。國。一。端。り。て。衆。人。不。逢。る。こ
 ぞ。將。う。る。もの。牢。城。ま。ら。ふ。程。く。る。時。ハ。決。率。不。代。里。切。腹。ま。る。こ。と。本。意
 な。れ。人。生。百。年。を。持。ち。て。た。ふ。暫。時。の。命。を。賜。り。て。永。く。汚。名。を。殘。さ。し。り
 ハ。吾。今。此。小。自。害。し。て。諸。人。の。命。を。救。え。ん。に。遠。意。を。著。て。秀。吉。の。料。理。を
 宜。く。恃。ま。入。る。と。言。と。聆。く。羽。柴。カ。友。使。也。地。不。帰。て。秀。吉。に。程。家。長。遠。意
 と。あ。ら。わ。く。言。ま。す。荒。花。ち。肝。不。落。し。て。感。歎。し。し。つ。く。助。け。歸。さ。ん。と。理
 解。と。盡。し。て。幾。遭。り。洗。ひ。と。む。ら。し。と。り。を。り。し。し。心。決。し。て。如。命。と。決。せ。り。これ

によりて秀吉も是非なく恒家への信を疑はぬ。是の如く信じて居るに、恒家の如くはこれより
 東送する程に、恒家へは四圍人あり。衆下中村の密を呼、秀吉が病を
 傳所を自害と定し、東にこれより八景嶽へ、今更嘆き無し。後悔を
 るを限りなく、恒家ハ橋丸山へも、遠近を粟しはる。然して、野柴は陸
 中へ長和と弟左衛門野田左衛門尉を遣はさる。彼率們助命の盟文と
 恒家へ自害の檢使と成をせざる。時十月廿四日、衆下出羽入道堂
 春、中村但馬守高成ハ高取城より自害す。依本三弟左衛門恒家周
 防守、宗和日本之助三人ハ丸山の城より切腹せし。野田長和の友人秀吉
 の陣より、盟文とを檢使と誘て、直地小城中に立歸り、檢使ハ堀尾
 一柳、志づくと入城せざる。恒家も中も切腹の準備す。而後と近へく
 禮のにおり、その坐子着く勅断と。志津摩源去清に命じたる。時秀吉

晴源去清に嚮ひ、大將恒家の藏小まて、天下に実檢より、これに念い
 ます。これより秀吉より、内意よりぬとつとを、恒家荒奈とらあり。ひと
 が一命を弄るとして、天下に名士とす。秀吉が養嘆を被ふるのそ、首
 級とす。つと將軍へ、実檢とを、けむる。と、世々の執候なり。檢小晴
 なる勅断と。つと殿よりといふ。儀式攪る。胆檢則、吉と、か
 くれ。志津摩へ、あつ。太刀振揚て、丁度うつ。あつ。うりに、怒嘆の、盛
 くや、あり。人、殿より、つと、検さる。し、恒家呵て、つと、殿ぬを、信、首と
 恒舒なる、つと、二の太刀殿より、や、やくに、恒家、首と、ら、あ、野田
 長和、友人、つと、首と、流で、捕、小、収、め、檢、使、と、ら、小、帝、野、山、の、秀、吉、を、陣、小
 衆、候、して、つと、恒家、が、首、級、と、を、出、す。次に、衆下、中村、恒家、依、本、三、弟、和、又
 人の首と相探さる。秀吉、これと、兼、執、す。而、般、安、去、への、が、せ、り、も、好、知、に

言状みせし信長公も經家が義心を深く感賞せし首級を要く
葬つてお人の首の素衣に拭き得正しくする。備前にお目小
へ筑前守指揮ありて。吾取城中の案を出させ。美州の兵士をこれ
小窓懸りて。帰國させ。亦國方の雜人等の飢勞する輩に粥糜
を煮させくさきと食し。恙無くく介抱ありし。故郷くへ
送歸しぬ。既にお取城滅せし。周別一國全く平治し。此歳へ年も
をりれば。一應凱陣をとり。と事定まりたる。而も南條小鴨使者と
は。よく。吾報をそと。取城へ運給せし。れ。の。る。る。と。粟。一。來。る。は
筑前守。然るに。選路の役宜し。と。吾報を播納し。と。總軍。四。万。を。次。才
に。引。行。せ。伯。別。當。て。選。返。を。それ。の。周。邊。を。石。門。後。河。を。元。春。へ。吾。取。の。援
を。ま。し。と。安。藝。を。進。發。出。雲。を。富。田。の。卷。に。吾。陣。を。備。方。六。軍

勢を振くとし。も。おの。く。自。國。の。強。弱。繁。く。加。え。る。と。一。一。と。察。り。し。が。
時。日。を。と。と。と。と。取。城。危。急。を。う。ん。と。九。月。の。末。伯。別。八。萬。小。軍。を。移。し。備
を。待。つ。と。三。旬。餘。り。七。子。休。務。と。なり。し。が。も。羽。柴。が。大。軍。に。對。し。が。じ。と
大。事。を。執。り。進。ざ。り。し。が。吾。取。城。を。さ。し。あり。と。存。候。の。若。ら。ち。駭
き。十。月。廿。七。日。と。と。と。國。國。馬。野。一。陣。を。極。以。存。候。若。び。狂。來。り。と。明
ま。六。那。の。日。廿。八。日。吾。取。城。大。將。經。家。自。害。に。及。ぶ。と。若。る。を。駭。驚。其。を
る。ま。く。瀝。り。ぬ。く。今。の。進。退。備。に。お。ま。な。那。地。小。推。進。せ。經。家。が。吊。軍。せ
ま。ん。ば。お。り。と。諸。勢。に。出。陣。を。洵。る。機。會。う。り。ま。し。と。大。急。の。注。伸。あり
て。秀。吉。大。軍。を。操。出。して。當。國。へ。來。る。なり。と。若。る。小。元。春。を。未。だ。遠
地。に。待。り。け。合。戦。を。う。ん。と。馬。野。山。に。營。く。列。陣。を。し。選。兵。七。千。有。餘。人
死。を。畢。り。と。相。議。を。る。若。か。ど。小。筑。前。守。秀。吉。の。雲。傍。を。出。して。と。と。と。と

のりて視決めを。自方の備軍に留るなり。目今右門が出軍ハ小
 勢なれども必死と定り。吾大軍不敵せん。然れども其の甚しき
 被害軍と戦て幸ひ。自軍の被害を減せん。是より帰陣する
 事如し。洞もいさ終り。此の地は。龍頭。家政進。出大將の令洞ハ
 然るを。羽衣岩倉へ。之糧を。授贈する人。右門元春。吾取
 城の怒を。南條小鴨を。攻起人。小防。我慥。を。城。之。然る
 响に。あま。り。己。後。降。参。る。もの。ある。なり。け。は。宜。く。岩。倉。羽。衣
 の。城。へ。之。糧。を。送。り。せ。の。ひ。加。勢。の。去。り。も。残。り。を。の。り。右。城。堅。く。防。禦
 せ。し。然。れ。ば。自。然。と。元。春。も。退。陣。せ。し。理。あり。ん。ら。小。原。に。も
 残。り。を。も。南。條。小。鴨。小。力。を。殺。せ。相。守。る。く。候。り。ん。と。候。氣。あり
 東。へ。出。る。成。父。右。衛。門。大。少。将。なり。や。それ。家。政。推。参。り。諸。士。の。是。日。ハ

も待て。弱軍の身に過分なり。控て在るを。秀吉。吾。然。小
 あ。ら。び。小。六。が。詞。實。に。至。理。あり。吾。と。申。す。斯。と。を。ひ。つ。る。もの。な。よ。こ
 右。東。へ。出。た。る。な。れ。而。地。に。是。報。運。贈。せ。し。然。れ。ども。無。計。に。これ。を。料
 理。ハ。毛。利。の。技。寨。小。瀬。守。ま。る。無。軍。あり。び。に。右。門。の。諸。士。倣。兵。糧。運
 贈。を。妨。ぐ。置。れ。糧。糧。の。俸。の。深。く。秘。め。お。き。吾。大。軍。の。揚。揚。り。たる。勢
 を。な。し。右。門。勢。と。一。戦。を。し。披。露。を。り。元。春。も。亦。吾。倣。を。防。ぐ。軍。使
 を。と。置。し。吾。も。顯。露。小。對。陣。して。吾。軍。威。を。知。り。し。左。右。の。隊。陣。に
 右。城。へ。之。糧。を。送。り。運。送。せ。し。謀。略。を。謀。合。せ。總。勢。四。万。有。餘。人。取。得。と
 軍。威。を。壯。け。し。然。れ。ども。進。退。を。し。羽。衣。に。綿。繼。る。右。山。の。雲。に。卷
 隣。里。本。陣。を。居。る。旗。馬。幟。飄。く。翻。く。と。吹。流。し。右。門。元。春。が。陣。列。たる。馬。野
 山。を。正。下。に。視。仰。し。躍。龍。走。虎。の。凝。勢。を。張。り。眼。下。の。款。を。一。吞。み。し。

系けい通とふ列陣れつじんしな色いろはる得とふ悍かんさ若門わがもん勢せいも羽柴はしばしが勇氣ゆうきに振まれ
 怖おそ氣けだちて發は動どうしくれば大將たいしやう元春げんしゆん諸勢しよせいを懋もまさん津つの背せは
 至いたる橋津はしづ川の橋はしを断こと裁させ繫つさう和わを金かね懸かく燒や拂はふを死し
 を示しめす

繪本豊臣勳功記五編卷之三終

